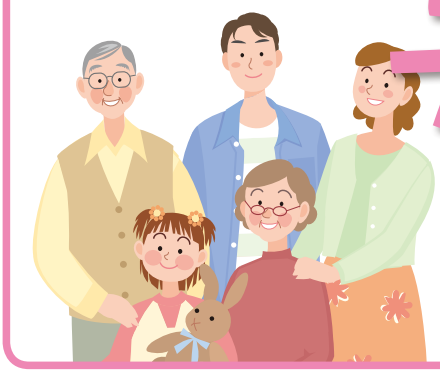

笑顔のひろば

vol. 33
2016年　春号
川崎協同病院
広報誌
http://www.kawasaki-kyodo.jp

病院をあげて取り組む医療倫理学習

「ドラマで考える医療倫理」を教材に、活発な議論も

和田医師の講義を真剣に聞く職員

「ドラマで考える医療倫理」の DVD

川崎協同病院では、医療倫理の問題について病院をあげて取り組んでいます。2002 年から医療倫理委員会を定期開催し、これまで終末期医療の指針などを作成したり、医療現場で直面する困難な事例について協議したりしてきました。

また、毎年医療倫理月間を設け、職員全体で医療倫理への理解を深める学習をしています。昨年は 12 月におこなわれましたが「ドラマで考える医療倫理」（制作 :art médical、群馬大学医学部医学科）という DVD を視聴し、ディスカッションと医療倫理委員長である和田浄史医師が講義しました。

この DVD はいくつかの短編ドラマから成っていて、今回視聴したのは、患者さん本人の意識がないなかで、家族が人工呼吸器をつけるか否かの判断に迫られるというドラマでした。視聴後には、患者さん本人の意思はどうだったのか、家族の想いは、あるいは医療者側の対応は適切だったのかなどについて、医師・看護師から事務職員に至るまで様々な職種のものがそれぞれの視点で考え意見を出し合いました。

院内ではいつでもこの DVD が貸出可能となっていて各職場での学習も進んでいますが、今後さらに広く活用されるよう呼びかけています。

講義をする和田医師

新入職員からも大きな反応が

川崎医療生活協同組合の新入職員研修の一環としても医療倫理についての学習時間がもうけられています。今年度は新入職員を前に和田医師が講義をしました。そのなかで和田医師は、「医療の現場では、倫理的ジレンマ、もやもやから逃れることはできない。すっぱりとこれはこう！と決めつけてしまえば気持ちはすごく楽になるかもしれない。だけどそれでは真に患者のための医療とは言えなくなる。僕たちにできることは、一人ひとりの患者さんときちんと向き合って、チーム全員で悩んで、悩みぬいて働いていくしかない」と、医療従事者の姿勢を話しました。

真剣に聞き入っていた新入職員からは、「答えのない難しい問題でしたが、自分の倫理観を見つめ直すいい機会でした。意見が合わないことは当たり前、しっかりと意見を交わす環境作りが大事だと学びました」、「医師だから、看護師だからといって独断ではなく、おかしいなと思ったら一人で決めない、一回で決めずに何回でもたくさんのスタッフ間で話し合えるといいと思いました」、「正解のない問題に直面した時、考えることを止めるのは、医療者としての責任を投げ出すことになると思いました」といった意見が出されました。また、各職場に配属になってから患者さんとどう向き合っていくかについても意見が交わされました。

医療倫理の学習と、これをもとにした日ごろの話し合いの実践は、川崎協同病院に根づき広がっています。

川崎協同病院医療倫理委員会　事務局　伊東 匠

NEW FACE 2016年度新入職員紹介

新年度に入り、川崎医療生協には初期研修医２人を含む３２人のＮＥＷ ＦＡＣＥが入職しました。その内川崎協同病院には医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、診療放射線技師、薬剤師の３０人が就任しました。
川崎協同病院を中心に、地域医療を担う医療人として期待されています。そんな期待の新人たちの代表４人を紹介します。

若さみなぎる 2016 年度新入職員

Question

①なぜこの病院を選んだか
②将来、プロとしてなにを目指すか
③今後仕事以外でチャレンジしてみたいこと
④その他アピールしたいこと

松本（まつもと） 友里（ゆり）
（医師）

①病院見学に来た時、先生方のお人柄やコメディカルの方々の雰囲気が他院にはないものだと感じ、ぜひこちらで医師人生のスタートを切りたい！と思い、志望しました。
②常に回りを見て、色々なことを考え、そして気づくことのできる医師になりたいです。また、生涯成長し続けることのできる医師でありたいです。
③春休みに屋久島で登山をしてきました。とても楽しかったので、時間を作って少しずつ山ガールになりたいです。
④真顔が怖いとよく言われますが、怒っていたりする訳ではありません。仲良くして下さい。

高橋（たかはし） 尚子（なおこ）
（看護師）

①インターンシップを体験し、病棟の皆さんが協力し合い患者さんやご家族中心の医療、看護を提供している所に魅力と感じました。職員、患者さん、ご家族、地域で暮らす人達を大切にするこの病院で働きたいと思いました。
②患者さんの立場に立った看護が提供できる看護師を目指します。患者さんの思いやこれまでの生活背景を大切にし、その人らしい生活が今後も送れるように援助したいと思います。そのためにも実践で一生懸命学びます。
③以前登山をしていたのでまた始めたいです。アコースティックギターに憧れているので習ってみたいです。
④走れない高橋 尚子です。とうぞよろしくお願いします。

児玉（こだま） 慎太郎（しんたろう）
（診療放射線技師）

①「医療とは、患者様と医師、医療従事者との共同のいとなみ」という言葉に大変感銘を受け、私もその医療を担う一員となり、この病院の医療に貢献したいと思い、この病院を選びました。
②私は、患者様に対し、思いやりの心を持って仕事をしたいと思っています。患者様への対応の仕方だけでなく、技術面でも、先輩から見て、聞いて学び、常に向上心を持てるような技師を目指したいです。
③父がゴルフをしていることもあり、ゴルフに挑戦してみたいと思っています。
④なし

鈴木（すずき） 彩加（あやか）
（薬剤師）

①私がこの病院を選んだ理由は、「薬剤師として成長できる場所」だと感じたからです。薬剤師として知識を広げるだけでなく、他職種との連携により、幅広い知識を広げることができる病院だと感じました。
②患者さんに寄り添う薬剤師になりたいです。薬は、患者さんによって異なることがあり、薬だけでなく、健康食品も薬とかかわることがあります。患者さんの生活を理解し、患者さんに合う薬を選択できるよう努めたいです。
③趣味を広げたいと思ってます。最近では、ぬり絵とギターを勉強中です。まだまだですが、頑張ります！
④人見知りですが、話すことは大好きです！是非声をかけて下さい！私から声をかけたときも相手してくれると嬉しいです。

TOPICS トピックス

研修医がシミュレーターで手技を練習中

JCEP の更新調査で全国で５施設のみの６年認定を取得！！

―職員全体で良い研修医を育てる環境が評価される―

昨年末に川崎協同病院が受審した卒後臨床研修評価機構（JCEP）の更新訪問調査結果がこのほど届きました。この調査は、研修医を育てる病院として、厚生労働省が定めた内容をきちんとクリアしているかなど、初期研修が適切に行われているかどうかを評価するもので、４人のサーベイヤーが一日がかりで、書類審査･部署訪問･カルテチェック･研修医や指導医へのインタビューなどを行い、決められた評価基準に則って採点されます。

今回は 88 項目中 86 項目が a 評価、２項目のみ b 評価で、６年間の認定を取得しました。

認定番号 九州11-6

Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training

JCEP 認定証

Certificate of Accreditation Postgraduate Clinical Training Program

川崎医療生活協同組合

病院名　川崎協同病院　殿

貴病院は特定非営利活動法人 卒後臨床研修評価機構の定める認定基準を達成していることを証します

認定（6年）

有効期間
2015年10月1日から
2017年9月30日まで

発行日
2015年10月1日

特定非営利活動法人 卒後臨床研修評価機構
Japan Council for Evaluation of Postgraduate Clinical Training

理事長 高久史麿
評価委員長 有賀 徹

６年間の JCEP 認定証！

基本は２年間の認定で、評価に応じて４年間あるいは６年間になります。最高評価の６年認定を受けた病院は、当院を含め全国で５施設しかありません。

総評では「病院の規模という面ではいわば限界がある一方、院内の意思疎通が良好で、職員全体で良い研修医を育てたいという雰囲気に満ちています」と書かれており、「狭いながらも多くのスタッフの夢と熱意に溢れた立派な城」という当日の講評を踏襲した評価をいただくことができました。

１学年の定員が３人という小規模の研修ですが、研修医一人ひとりの個性や強みを大切にして、今後ともよりいっそう地域に愛される医師の養成をめざしていきたいと思います。

基幹型臨床研修病院初期研修プログラム責任者
川崎協同病院外科部長　和田 浄史

睡眠時無呼吸症候群（SAS）

～オプション健診で早期発見を～

あくしょん action

睡眠時無呼吸症候群（SAS）は、眠っている間に呼吸が止まる疾患です。主な症状として日中の眠気、いびき、起床時の頭痛、熟睡感の欠如などがあげられます。しかし自分では睡眠中の無呼吸になかなか気づかないために、検査･治療を受けていない潜在的な患者が 300 万人以上いると推計されています。

この疾患が深刻なのは、気づかないうちに様々なリスクが生じている可能性があることです。強い眠気による居眠り運転は重大な事故を招く可能性があります。また、生活習慣病と密接に関係しているので、放置すると高血圧、循環器系疾患、脳卒中などの合併症発生が高まり生命に関わることもある大変危険な疾患です。

SAS プロジェクトチーム
臨床工学技士　根岸 道哉

当院では潜在する患者の掘り起こしを目的に、2015 年５月より健康診断での SAS スクリーニングオプション検査を開始しました。2016 年２月末時点で 54 人がこの検査を受けました。結果をみると、そのうち軽症以上が 36 人と半分以上に SAS の疑いがあることがわかりました。その後受診して精密検査を実施した人が８人で、さらに治療を希望した人が３人います。

当院ではこれまで SAS 治療している患者が 100 人を超えました。SAS は様々な合併症を引き起こす怖い疾患です、健診時であれば 1000 円（税込）で受けることができます。症状がある人には SAS スクリーニング検査を受けられることをお勧めしています。

地域連携室の

おじゃまします！

暮らしを支える総合的支援

～地域に開かれ、地域に育てられ、地域を育てる～

かわさき障害者福祉施設たじま

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、毎号紹介していきます。第13回は「かわさき障害者福祉施設たじま」です。

（取材：地域連携室　鍵屋 真理　高橋 靖明）

「かわさき障害者福祉施設たじま」（以下「たじま」）は、社会福祉法人川崎聖福祉会が運営する障がい者支援の活動拠点です。川崎区の田島町にある田島支援学校の隣にあり、建物は、３階建てでエントランスがガラス張りで吹き抜けになっていてとても開放感のある明るいつくりです。「たじま」は、川崎区の障がい支援の活動拠点施設として、地域生活に必要な多機能性を持っています。住民活動の場やボランティア活動などの支援、地域生活における利用者の「暮らしを支える総合支援」の機能と「地域に開かれ、地域に育てられ、地域を育てる」施設を目指し今年の４月に開所しています。

法人としては、これまで市内に障がい者、高齢者福祉に関わるさまざまな施設を運営してきました。また同区内で日中活動を行ってきましたが、これに加えて今後は、日中一時、短期入所、総合相談、地域交流の５つの事業を柱に運営します。

「日中活動」では、障がい者に通所で、介護、機能訓練、レクレーション、生産的活動や地域活動などを行います。４つのグループが、障がいや活動内容によってそれぞれのスペースに分かれて活動しています。空間も広く設備も整っています。現在は40人ほどが利用していますが、将来は80人（定員）を目標にしています。「日中一時」は、日中一時預かりが必要な障がい児（者）に、介護、生活訓練などを行います。短期入所は、障がい者に、介護、生活体験などを通して自立に向けた支援を行います。定員は４人で重度の人向けの部屋があったり、畳に布団の部屋があったりと利用者の状況に合わせた作りになっています。

「たじま家庭支援センター」は、児童、障がい者、高齢者などあらゆる家庭生活の相談を受けます。障がい者だけに関わるのではなく、家庭の中で起こる課題や困りごとに対し、地域や関係機関と連携しながら家庭まるごと地域まるごとワンストップで相談を受け、関係機関と連携し課題解決のコーディネートを行います。地域包括システムの実現を目指す施設側の強い思いが表れています。

「地域交流」は、地域住民やボランティアによる地域活動の支援を行います。１階入ってすぐの場所に地域交流スペースが設けられ、地域住民・団体やボランティアに開放され、会議や活動を行えるようになっています。

「地域の活動を支援し、地域に支えられながら、地域とのつながりをつくっていきたい」「地域の中でみんなが暮らしやすいよう支援していきたい。そのために気軽に足を運んでもらえる施設にしたい」と田中施設長はヴィジョンを話します。

●川崎協同病院へひとこと・・・

在宅医療など地域密着医療を行ってくれていて、その人その人を大事にしてくれていてありがたく思っています。今後は、より密に医療連携をしていきたいです。よろしくお願いします。

●おじゃまして・・・

建物も開放感があり、障害者だけでなく地域住民を含め誰もが入りやすい雰囲気があり、日中活動や短期入所としての機能だけでなく、相談窓口としても交流の場としても大いに期待できる施設だと感じました。今後は協力医療機関として、地域や利用者の方の力になれるよう、よりいっそうよい連携を図っていきたいと思いました。

社会福祉法人　川崎聖風福祉会
かわさき障害者福祉施設たじま
施設長　田中 陽一
川崎市川崎区田島町20番10
ＴＥＬ：044-276-9684

広報係のひとりごと

院内の栄養サポートチームと介護・医療地域連携の会の主催で「在宅療養と栄養について～チーム医療､病院から在宅まで～」をテーマにした学習会を開催しました。114人の参加でした。今まで院内で100人を超える学習会の実績はなく、部屋に入りきるだろうか、と心配でした。当日はギュウギュウづめの環境でしたが、何とか座って講義を聞くことができました。講義ではサルコペニアについて、誤嚥性肺炎で入院されたら、とりあえず絶食ではなく、早期の食事開始、口腔ケア、リハビリをすることに効果かある、などいままで知らなかったことを教えられました。主催側の一員の私も、分かりやすく飽きることのない講義に時間を忘れ聞き入ってしまいました。

副看護部長　小森 千絵

笑顔のひろば
vol.33　春号
発行：2016年4月30日　川崎協同病院広報委員会
川崎市川崎区桜本2-1-5　TEL:044-299-4781（代）　FAX:044-299-4788　http://www.kawasaki-kyodo.jp